



ルミカ: 照明の革新者としての軌跡

株式会社ルミカは、化学発光の新たな用途を創造し、持続可能かつ革新的な技術を核として、革新的な製品を市場に導入している。



「癌の根絶への応用に研究者たちが化学発光を光源として応用してくれることを期待している」

株式会社ルミカ 代表取締役 原田 士郎

50年以上前に創業された株式会社ルミカは、夜釣りに革命を起こすというミッションのもと、熱を伴わない冷光を発する化学反応技術を業界に導入した。その技術は、釣り用のミニライトスティックから、パーティー用の光るアクセサリに至るまで、多岐に渡る製品で応用されている。

代表取締役の原田氏は、「私たちは、釣りウキの上部を化学発光で光らせることで、釣りの世界に夜釣り革命を起

こすことを目標に会社を立ち上げました。その小さな光は海岸線に沿って伝わり、一瞬にして世界中に広がったのです」と創業当時を振り返る。

しかし、1990年代初頭にはLED技術の台頭と主要特許の失効による大きな挑戦に直面した。ルミカはこれ乗り越え、LEDよりも明るく光る短時間用ライトスティックを開発することで、化学発光製品の市場を再度活性化させた。また、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に沿って、リサイクル可能なグロースティックの開発にも成功し、環境への配慮を示している。

そのコアテクノロジーである化学発光の応用範囲は、ノベルティアイテムだけに留まらない。新型コロナウイルスが世界を襲う中、同社は二酸化塩素 (ClO_2) ガス発生キットという革新的な製品を市場に投入し、新しいユーティリティ製品へと事業の軸を移行させた。この製品は化学発光ライトスティックから発展し、売上的大幅な伸びとともに、製造ラインの維持にも大きく

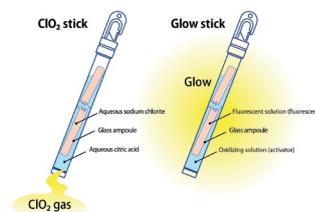
貢献している。原田氏は、「以前は化学発光スティックの生産に注力していましたが、新しい ClO_2 ガス放出スティックの開発により、より効率的な生産ラインを確立しました」と説明する。

また、ルミカはその技術を医療や災害対策など、さらに広範な分野での応用へと拡大している。



Radio-controlled LED glow ball

制法などの政策がグローバルサプライチェーンの多様化を推進している中で、日本企業が市場シェアを拡大するチャンスがあるという。「日本は引き続き、研究開発や設計、品質管理の分野で競争力を保っています。これらの強みを活かし、海外のパートナーとの連携を深めることが、今後の成長戦略には欠かせません」

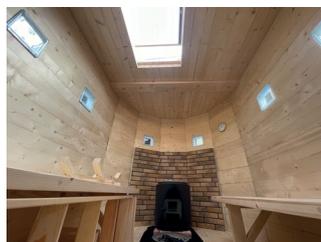


ClO_2 and glow sticks

特に光免疫療法分野では、化学発光が新たな治療法の開発に寄与する可能性がある」と期待されている。原田氏は、「光免疫療法はがん撲滅の潜在的な手段として非常に有望です。私たちの化学発光技術が、そのための重要な光源として利用される日が来ることを望んでいます」と語る。

さらに、原田氏はルミカのような日本企業が持つ戦略的優位性について、信頼性の高さ、先進的な技術、徹底した品質管理が、グローバル市場での競争において有利な位置に置いていると語る。また、米国のインフレ抑

ルミカは今後も技術革新と製品ラインの拡大を進め、化学発光技術の新たな市場と応用分野の開拓に注力していく。原田氏は、企業活動の最終目的として、「グローバルヘルスケアの強化やエンターテインメント、救急分野でのイノベーションを推進することはもちろん、未来の起業家たちが公共の利益を重視しながら、収益性の高いビジネスを創造することを期待しています」と締めくくった。



Inside and outside iPao, the container loadable house

LUMICA

www.lumicaglobal.com